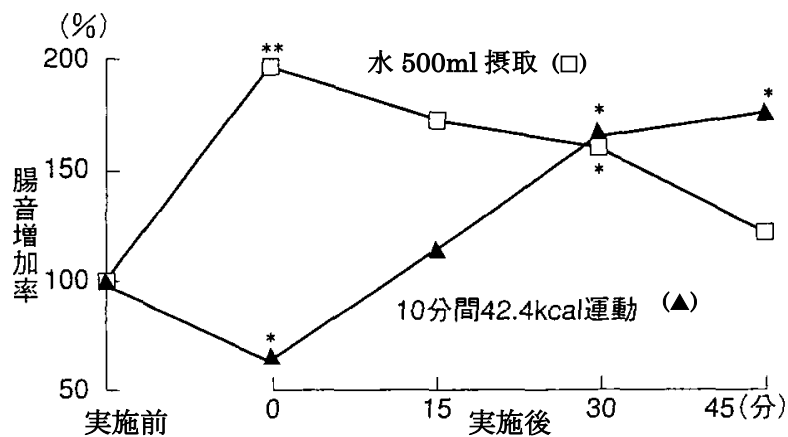


## <看護学専攻>

### 専門科目

問 以下の設問から一つを選択し、指定された文字数内で論じなさい。

1. 下図で示している結果を読み取り、このことから便秘の対処法として「水を飲む」ことや「運動をする」ことのケア効果について、800字以内で述べなさい。



水および運動負荷の腸音に及ぼす影響

被験者は 20～30 代の健康女性。縦軸は、飲水と運動の負荷実施前の腸音出現頻度を 100 としたときの各時間の増加率 (%) を表す。横軸は左端から負荷実施前、負荷直後 (0 分) から、15 分、30 分、45 分後を示す。

\*印は負荷前の腸音数と比較したときの有意確率 \* $p < 0.05$ 、\*\* $p < 0.01$

(出典；菱沼典子ほか編：看護実践の根拠を問う 改定第 2 版.p.112.南江堂.2007 より一部改変)

2. 下記事例に対する退院後のフォローアップのために、現状の分析を踏まえて、以下に示すキーワードから一つ以上使って、優先度の高い看護目標を論じなさい。(800字以内)。

キーワード：【母親役割獲得】【セルフケア】【愛着形成】【喪失体験】  
【悲嘆作業】

Aさんは、35歳の女性である。既往歴はない。結婚し5年目に不妊治療を始め、2年後妊娠し、39週で2800gの女児を出産した。分娩直後、産後の復古状態および母乳分泌も良好である。本人の希望で、出産直後から母児同室をしており積極的に育児技術の習得に励みプライマリーの助産師からは育児にも問題がなさそうという報告が看護スタッフ間で共有されていた。退院予定前日の産褥5目の午後8時に、看護スタッフが訪室し、声をかけるとAさんは新生児を見ながら涙ぐんでいる。話を聞くと、夫が「男の子がやっぱりよかった」と何気なく言った一言が頭から離れないとAさんはいう。